

破滅の瀬戸際に臨んで、刹那に、自己に、逼り來たらざれば、眞の信仰の風光に、與かることの出來得ざるものか、何んでも第一線へ人を送つて置いては、後から號令するやうか、不眞面目さではいかか、斯うした問題を所有しないで、否所有すべき機會を突破なして置いて、只信仰の盛氣樓に戯むれやうとする不眞面目さよ！ 切實に其の問題に觸れて眞摯に味はひ、そして聖祖の『一切衆生の異の苦を受くるは、日蓮一人の苦あり』と云ふ氣分に、一寸でもなつて見ることが、出來ぬものなるか、自己の淺間しきまよ、噫！ 徒らに机上の空論のみに囚はれんとするを欲せざれ、夫れ治國平天下何に因つてか生ず、觸れたきものは生命なり、握るべきものは信念ではいかか。』と反省し來つた自分が、今また墮性の命令に逆轉の聲を耳にする、これ何たる心内の矛盾も甚だしい業ではある!!。(完)

## 先づ糧を與へよ

高三 松木 秀月

『法華經の現實主義積極的成佛論は人生に取りて最上無上の教に相異ありません。然し我々には其の成佛論を云々するより前に大きな先決問題があります。それは何ふして其の行くの露命を繋いで行かう歟と云ふ事でありませう。貴所方が説教に演説に常に力説して下さる信仰の道精神的生命の復活、有り難く拜聴致します。去り乍ら其の有り難い説教や演説を聞き感激して歸れば憐れ自分の家庭には親や妻子が外米の残り少なき米櫃を覗いて今晚の糧の不足を告げて居ます。是が西方淨土夢見る教や此世の外に天國を理想境とする教でありますなら私供は其儘死むで阿彌陀様の所若くはゴッドの膝下へも行きますせう。然し貴所方の主張おさる教は未來に成佛せうと思ふたら今生に佛に成て居らねばならぬ。此の世を離れて西方淨土も天國も無いのだ若し在ると云ふ教は架空的の教で

ある。そんな夢想境に憧れて此の現在を輕視する者は非國民である亡國の民である人生の眞意義の何物かを知らぬ者であると申されます。私も其の教に隨順して此の細腕一ツで朝には星を戴いて出で夕には月を踏むで歸り其の勞働に依つて漸く親子の口に糊して居ました。然し今は餘りの過激の勞働に躰を悉つかり害してしまひました。最早今は働く勇氣もありません。政府や政界の人々が物價調節問題に苦慮してゐるのも其實が擧がらず段々寒くは成りますし。此儘で行つたなら私供は此冬中に飢死してしまひます。嗚呼私供は折角人間に生れて來た甲斐も無く佛に成る事が出來ないのみならず惡業に惡業を重ねて復三界流轉の淺間敷い境界——決して是は私供斗りではありません斯ふした人々は世の中に充滿してゐるのであります。——貴所の宗門には今幾千人と云ふ僧侶が居られます其の人々はどうして斯様な淺間敷い我々を救ふては下さらないのです歟。

宗教の本意は物質的よりも一步進むだ精神的に

ある事は承知して居ります。然し我々は此の肉体と没交渉の精神は持つて居りません精神的に救ひ得られるならば此の肉体も救ひ得られなければなりません。成佛も此の体あつての事です、先づ我々のこの五尺の体を御救ひ下さい、先づ我々に糧を與へられよ』

とは現在世人が吾人に向つての求めの聲には非ざる歟何んたる悲慘の聲ぞや。吾人宗教家が或は布道家として或は事業家として立つ時必ずやこの聲を聞かざるべからず。否宗教家夫れ自身に於ても斯の如き境遇に居るに非ざる歟本堂に於て本尊の御前に幕を張り養蠶する寺さへあるに非ずや。甚だ敷きに至つては自らの生活の爲に布教を爲し修驗者と成るが如き者は無き歟、口に道を説き心に明日の生活を思はざるを得ざるに至つては之等人々に依つて維持されつゝある宗門の將來思ひ遣らるゝに非ずや、是れ現代佛教各宗中流以下の寺院生活の狀態あり。思ふて茲に至れば宗教家の權威認めんとして認むる事能はず嗚呼!! 渴末の慘!!

於茲乎寺院併合の問題切に其の必要を感ず。徒らに寺院の多きを以つて誇りと爲す事勿れ寺院の多き必ずしも其の宗門の隆盛を語るに非ず。徒らに寺院多くして、爲す事無きが爲に遂に僧侶は所謂高等遊民の悪評を受くるに至りしなり。寺院は其の地方々々に依りて必要の場所に隨宜に之を置き他は總て其寺に併合せしめよ、而して併合せられたる寺院の僧侶は其の中央寺院に寄宿せしめ其の人々の生活費は寺院より支辨せしめ、寄宿せる僧侶は朝夕の勤經修行の外は進んで労働者たれ而して労働しつゝ休業時間及び其の他の餘暇を以て自らの經驗に徴して布教の任に當れ、労働に依つて得たる報酬は以て貧民救助の費に當てよ寺院住職は専ら社會中流以上の布教の任に當り學者は専ら是等僧侶に對し布教の根本材料を與ふる責任を有す。

但し苟も僧侶たる者は宗則に依つて定められたる有資格者たらずんばあらず。徒らに寺院多くして之を維持する方法無き原因は社會を救濟すべ

き其の者が還つて社會の人々よりより以上の生活難に泣くの奇を現出するに至りしなり。唯外形のみにして内に其の資格無きが故には慙むべき高等遊民の悪評をも受くるに至れるなり。

上述の如く爲す時は其宗教家わ眞に志堅固に信念深き者の外は志望する者無きに至らん而らば各自經驗に徴して布教の實跡の擧るは勿論宗教家の權威亦今の比には非ざるべし。能化者徒らに高位に在り(内は反す)所化低きが如くんば、彼等の何物をか待ち、又何に依つてか救はれん?

棧情調熟の爲には全知全能の佛陀尙四十餘年の種々の道を説き玉ふに非らずや。先づ進んで彼等の肉を救ひ然して靈に及べ宗教家の労働は其の本意には非ざらんも現狀を續けて下劣の生活に死ぢんより、先づ自ら身を捨て眞に生き彼等の靈と肉との生命を開發せしめよ。

『先づ彼等に糧を與へよ!!』